

複文の情報設計-講義

1 導入

Ch1 と Ch2 で、英語の文はまず主節を立て、そのあとで節をつなぐと安定することを見た。しかし、関係詞や従属節の形だけ正しくても、どの情報を主節に置くかがずれると、文全体の重心が不自然になる。たとえば日本語では「この結果から、地域差がまだ大きいことが分かる」のように言えるが、これを前からそのまま英訳すると From this result, that regional differences are still large is understood. のように重く読みにくい文になりやすい。ここで必要なのは語法ではなく、「何を言いたいか」に応じて主節と従属節の役割を割り振る設計である。

2 中心的な問い

複文では、どの情報を主節に置き、どの情報を従属節や修飾部へ落とすと、英語として自然な重心になるか。

3 用語

- 主節: 文全体の中心となる節
- 従属節: 主節を支える背景・条件・理由・内容などを表す節
- 情報の中心: 書き手が最も言いたい内容
- 背景化: 中心でない情報を従属節や副詞句へ退けること

4 方針

複文を組むときは、次の順序で設計する。

- その文で最も言いたい内容を1文で言い切る。
- それを主節にする。
- 時間・理由・条件・出典・対比などの補助情報を従属節へ下げる。
- 主節が短く明快に読めるかを確認する。

5 直感的な説明

複文は、「言いたいこと」と「それを支えること」を分ける技術である。主節は舞台の中央に立つ役者であり、従属節は照明や背景に近い。背景を中央に出してしまうと、文は文法的には成立しても、読み手には「で、何が言いたいのか」が見えにくくなる。

だから英訳では、日本語の語順を追うより、「この文の中心命題は何か」を先に決めるほうが強い。そこが
決まれば、理由や条件や出典は自然に後退させられる。

6 厳密な説明

複文の CLS が崩れるとき、しばしば問題は節の接続そのものではなく、命題の階層づけにある。主節には、
叙述上の中心を置く。従属節には、その中心を成立させる条件・文脈・限定を置く。

この区別ができていないと、日本語で先に出てきた情報をそのまま主節にし、本来中心である内容節や
結論を後ろへ追いやる形になりやすい。その結果、it is understood, there is, from this result などの空虚な
骨格が主節を占拠し、読み手が本論へ到達するまでに負荷が増える。

7 重要な構文パターン

7.1 外置による主語の軽量化

名詞節や不定詞句が主語になると文頭が長くなりやすい。To generalize this result is difficult. は文法とし
て成立するが、書き言葉では主語が重く見えやすい。そこで形式主語 it を前に置き、実質的な内容を後ろ
へ回す外置が好まれる。

Correct

It is difficult to generalize this result as it is.

Correct

It is one reason that additional tests are required.

この it is ... to V / it is ... that ... という型は、説明文で主語を軽くしながら主節を明快に立てるための
定着構文である。

7.2 背景情報を前置する表現

補助情報を主節の前に出すとき、学術文体で頻出する型がある。

型	例	使い所
Given ...	Given the problems raised earlier, ...	先行条件を簡潔に認める
In light of ...	In light of the comments at the meeting, ...	判断の根拠を前置する
Based on ...	Based on these findings, ...	出典・根拠を前置する
Considering ...	Considering the cost, ...	考慮すべき要因を前置する

これらはいずれも主節の主語・動詞の前に置かれる背景句であり、主節は必ずその後で完全な S-V で立つ。

8 具体例

8.1 例 1: 結論を主節にする

日本語: この結果から、地域差がまだ大きいことが分かる。

Correct

This result shows that regional differences are still large.

8.2 解説

言いたい核は「地域差がまだ大きい」である。ここでは This result shows … を主節にして、その内容を that 節で支える。日本語の「この結果から」を前面に出しすぎず、主節に意味のある動詞 shows を置くのが重要である。

Incorrect

From this result, that regional differences are still large is understood.

[CLS] 文法的に部品はあるが、主節の重心が空虚で不自然である。

8.3 例 2: 背景を従属節へ落とす

日本語: 会議で出た意見を考慮すると、この提案は修正が必要である。

Correct

In light of the comments made at the meeting, this proposal needs to be revised.

8.4 解説

主節で言いたいことは this proposal needs to be revised である。会議の意見はその判断の背景にすぎないので、In light of … として前置の背景情報へ下げる。この配置により、読み手は先に結論へ到達できる。

8.5 例 3: 重い主語を避ける

日本語: 複数の追加試験が必要であることは、この装置がまだ実用化されていない理由の一つである。

Correct

The need for additional tests is one reason this device has not yet been put to practical use.

8.6 解説

日本語の名詞節をそのまま主語にすると重くなりやすい。ここでは The need for additional tests と名詞句化して主語を軽くし、主節の骨格を読みやすくしている。Ch10では、このように節を句へ落とす判断も情報設計の一部として扱う。

9 別の見方

9.1 要約と重なる見方

複文の情報設計は、英訳だけでなく要約にも近い。何を中心にし、何を背景にするかという判断は、語学の問題であると同時に論理構成の問題でもある。だから CLS が崩れる人は、英文法だけでなく「この文で最も伝えたいことは何か」を先に言語化すると改善しやすい。

9.2 読み手の処理負荷から見る見方

読み手は主節を見た時点で「この文は何を言っているか」を仮に確定する。主節が空虚 (it is understood, from this result ...) だと、その仮の確定が宙に浮いたまま残りを読み続けることになり、処理負荷が上がる。主節に実質的な動詞 (shows, suggests, requires など) を置くのは、読み手を文の核心へ最短経路で届けるためでもある。

10 見分け方

- 主節が it is, there is, it was understood など空虚で、本題が後ろへ追いやられているなら重心を疑う。
- 日本語の前置された長い理由・条件・出典を、そのまま主節にしていないか確認する。
- 主節だけ読んでも言いたいことが見えないなら、主従の配置がずれている可能性が高い。
- 従属節や前置詞句を外したときに、主節が1文として立つかを確認する。

11 どこまで成り立つか

この講義は Ch10 の入口として、複文の重心をどこに置くかに絞っている。学術文体の hedging、主張の強弱、文体水準との連動は Ch13 で本格化する。また、名詞化や分詞構文をどこまで使うかは文体の問題でもあるので、ここでは「主節を明快にする」という原則にとどめる。

12 最終形

Display

複文の情報設計の手順

1. 最も言いたい内容を1文で言い切る
2. それを主節にする
3. 背景・理由・条件は従属節や副詞句へ下げる
4. 主節だけ読んで中心命題が見えるか確認する

13 一言でいうと

複文は節をつなぐだけでは足りず、何を主節に置くかという情報の主従設計まで含めて安定する。

14 演習への接続

この講義で扱った判断は、語順の言い換えではなく、「何を主節へ残すか」を決める設計である。したがって演習では、日本語の前置された長い理由や条件に引かれず、先に結論を主節として立てられるかを確認するとよい。

15 関連リンク

→ [講義](#) [関係詞と節の基本](#) [lecture](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/clause/関係詞と節の基本-講義/>

→ [問題演習](#) [複文の安定化](#) [exercise](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/clause/複文の安定化-問題演習/>

→ [問題演習](#) [複文の情報設計](#) [exercise](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/clause/複文の情報設計-問題演習/>

→ [講義](#) [英語ポータル](#) [lecture](#) [english](#) [overview](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/overview/英語ポータル-講義/>

→ [定石集](#) [誤りタグ体系](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/誤りタグ体系-定石集/>